

令和3年度（第27期）にいがた市民大学
「ミュージアムから見た新潟」公開講座
「千曲川と信濃川～流域の文化と特徴～」 実施概要

【会場】 新潟市民プラザ（新潟市中央区西堀通 6-866 NEXT21 6階）

【日時】 令和3年7月7日（水） 午後2時～4時

【講師】 笹本 正治 さん（長野県立歴史館 館長）

【参加者】 計 96 名

（内訳）

- ・ 講座受講者 56名
- ・ 一般参加者 40名

【内容】

長野県を源流とし、新潟市で日本海に注ぐ千曲川（長野県域）と信濃川（新潟県域）について、川が繋いだ歴史や文化、治水等様々な角度からお話いただきました。

古代においては、川によって伝えられたとみられる古墳や火炎土器などが流域で出土しており、中世では築城や戦いなどで川は重要な役割を果たしました。近世においては舟運により多彩な食文化等が伝えられました。

文化の交流や経済の発展にとって重要な役割を果たしてきた川ですが、一方で度々水害を起こし、流域の人々を苦しめました。武田信玄の信玄堤など、水の管理は国を治める者の義務でありました。

また、明治18年に起工された牛伏川本流水路工事は、下流域での土石流災害を防ぐため、そして河口である新潟港に砂がたまらぬよう、長野県がオランダ人技師を招聘し施工されました。川は繋がっており、上流の人の思い、下流の人の思いに各々が心を寄せることが大切であるとお話しされました。

最後に、「水道水をそのまま飲む国はあまりない。水の安全性を守るためにゴミを捨てない、そしてマイクロプラスチックの及ぼす影響など環境に関心を持ってほしい。」と強調しておられました。



令和3年度(第27期) にいがた市民大学

「認知症とともに～安心して暮らせる社会づくり～」公開講座

「希望と尊厳をもって暮らし続ける～認知症当事者からの発信～」 実施概要

【会場】 新潟市民プラザ（新潟市中央区西堀通 6-866 NEXT21 6階）

【日時】 令和3年7月10日（土） 午後1時～3時

【講師】 永田 久美子 さん（認知症介護研究・研修 東京センター研究部部長）
柿下 秋男 さん（日本認知症本人ワーキンググループメンバー・「希望大使」）
柿下 房代 さん（パートナー）

【参加者】

計 100 名 （内訳）・講座受講者 58名
・一般参加者 42名

【内容】

講師・当事者・パートナーによる鼎談を通じて、認知症になっても住み慣れた地域で、希望と尊厳をもって暮らし続けられる社会づくりについてお話いただきました。

講師からは、「認知症になったら、悪くなる一方で絶望的」という古い考え方から、「よりよい人生を送れるように、発症後も状態を維持し、地域の一員として、できることを見つけて、自分らしく暮らしていける」という新しい考え方を、一人ひとりが持つことが大切だとお話がありました。

認知症当事者からは、認知症になってから、絵画や料理など自分に合った楽しみを見つけ、生活が豊かになった。認知症になったから無理という考えではなく、認知症に負けずに、明るく前向きに自分らしく生きていくことが大切だとお話していただきました。

後半は、参加者の質問に答えながら、講師の解説、当事者やパートナーの思いをお話いただきました。

